

瀬戸内発見伝

巻の四十二

名刀を詠う

中国・詩人のみた日本刀

日本刀歌 欧陽修

昆夷道遠不復通 昆夷 道遠くして 復た通ぜず
 世伝切玉誰能窮 世に玉を切ると伝うるも 誰か能く窮めん
 宝刀近出日本国 宝刀 近ごろ出ず 日本国
 越賈得之滄海東 越賈 之を得たり 滄海の東
 魚皮装貼香木鞘 魚皮もて装貼せし 香木の鞘
 黄白閑雅鑰手銅 黄白の閑り雅れる鑰と銅
 百金伝入好事手 百金もて伝入す 好事の手
 佩服可以禳妖凶 佩服し以て妖凶を禳う可し

(訳文)

昆夷(「書経」にみえる名刀の産地)の国は遠い所にあり、行き来もできない。世に硬玉をもたれ切ったという名刀が伝えられているが、誰も訪ねあてたものはいない。ところが最近すばらしい刀が日本の国より出てきた。越の商人がこれを大海原の東から手に入れてきた。それは香木の鞘に魚皮(鮫の皮)が貼ってあり、真鍮と白銅を取り混ぜて飾ってある。百金という大金を払って好き者が手に入れた。佩用していると妖魔を払ってくれるという。



この詩は、中国・宋の時代の詩人、欧陽修(1007-1072年)の詩といわれ、全24行の内の前半8行の部分です。

この詩ができた頃、日本ではちょうど平安時代後期、奥州で「前9年の役」と呼ばれる戦いが行われていました。日本刀の歴史においては前時代の直刀から反りが加わり、現代の日本刀の形状が確立された時期でもあります。

日本と中国の貿易

寛平6(894)年、菅原道真の建議により、遣唐使が廃止された以降は、平清盛が承安3(1173)

年に正式に宋と国交を開くまで、日本と中国との官の貿易は、民間の私貿易を除き、閉ざされてきました。天徳4(960)年に成立した宋は、積極的に貿易を奨励し、多くの商人が日本へ来航していたと考えられています。こうした中で、越(現浙江省紹興)の商人

が来航し、日本刀を買い求め、中国へ持ち帰り、上記の詩が詠われたと考えられています。

貿易額の約8割が日本刀

明の時代、日本では室町時代の約百年間だけで、官の貿易による日本刀の輸出量は、分かつていただけでも12万8千本。密貿易や倭寇ルートによって中国へ持ち出された日本刀などを含めると、膨大な数になると考えられています。

当時、中国との貿易での輸出の主力品は、火薬の原料となる硫黄や銅、扇、日本刀だったと言われています。

す。時には、貿易額の約8割が日本刀であったことから、いかに中国において日本刀が好まれ、評価され、高く売買されていたかが分かります。備前の刀も瀬戸内海航路を伝って多く中国へ渡っていったことでしょう。

これだけの日本刀がなぜ中国に輸入されたのか。各時代において、中国沿岸を荒らしまわる倭寇の手に渡らないよう、中国の政府が、日本刀を買い占めたとも言われています。中国において、武器としての実用性を評価され、さらに、「佩用していると妖魔を払う宝刀」として好まれた日本刀。国と時代を越えた日本刀賛美の詩から日本刀を見直していただけたらと思います。

【参考文献】

- 『長船町史 刀剣編通史』
- 一海知義著『漢詩一日一首』
- 加藤三穂著『日本刀と中国における日本刀詩』
- 二田田弘毅著『倭寇』

まちの話題



訓練の成果を発揮

鹿忍分団が

県消防操法訓練大会に出場

県消防操法訓練大会が5月18日、県消防学校(岡山市)で開催され、市消防団鹿忍分団から5人の選手が、小型ポンプ操法の部に出場しました。

選手の皆様は、一昨年から大会出場に向け訓練を実施。大会では機敏な動きで、

訓練の成果を発揮しました。上位入賞を果たすことができました。訓練・大会を通じて技術が向上し、絆が深まりました。

市民の皆様との生命と財産を守る消防団。災害現場の最前線で迅速に対応するため、日ごろからさまざまな活動や訓練を実施しています。



小型ポンプ操法に出場した鹿忍分団の皆さん



参加者全員でドッチビーを楽しみます

みんなで楽しく運動しよう

わくわく健康キャラバン

今城小学校体育館で5月31日、ストレッチや体力チェックを通して楽しく運動しようとして、わくわく健康キャラバンが開催されました。24人が参加し、体力に自信がある人もない人も、まずは自分の体力チェック。上体起こしと反復横跳びに挑戦し、自分の体力年齢を確認していました。その後は、みんなでドッチビー。軟らかいフリスビーを使い、参加者全員でわいわいと楽しみました。大人から子どもまで楽しめるわくわく健康キャラバンは、土曜の夜に月1〜2回程度、10月まで開催します。

きれいな花が咲くといいいね

今城保育園で「みんなの花だより」キャンペーン

今城保育園(心光左恵子園長・園児65人)で5月30日、来春岡山市で行われる全国都市緑化おかやまフェアの「みんなの花だより」キャンペーンとして、花の球根植えが行われました。

4・5歳児32人は、ももっちの来園を大

歓迎し、一緒にプランターに土を入れたり、ダリアとグラジオラスの球根を丁寧に植えました。花の世話が大好きな園児たちは、「きれいな花が咲くといいいね」と仲良く水やりも行い、花が育つことを楽しみにしていました。



ももっちと一緒にプランターに土を入れる園児たち